

野生動物管理の担い手育成に係る国際シンポジウム等の開催について（お知らせ）

近年、ニホンジカ（及びエゾシカ）、イノシシ等の大型獣の分布拡大と個体数の増加により、農林業被害や自然生態系への悪影響が深刻化しています。一方、野生動物の管理の担い手である狩猟人口は激減の一途をたどり、狩猟システムの崩壊は目前にせまっています。そのため、これらの解決に向けて、関係機関が連携のうえ、海外の専門家を招聘し、シンポジウムを開催いたしますので、お知らせいたします。

I 海外の専門家の略歴

Dr. A. J. DeNicola（ホワイトバッファロー代表）

野生動物による危害から固有種や生態系を保護するために個体数管理と研究を専門に行う非営利団体「ホワイトバッファロー」の共同創設者であり、会社代表である。パデュー大学にて博士号を取得し、学位論文名は「過剰に増えたオジロシカにおける繁殖管理」。野生生物学会の野生生物学者として活躍しており、ラトガーズ大学、イリノイ大学、ハートフォードのトリニティカレッジ、そして、デンバー動物協会におけるリサーチ会員でもある。国際誌に30以上の論文を発表している。

Prof. Dr. M. Schaller（ミュンヘン工科大学教授）

シャラー博士は1990年以来、バイエルン州フォレストサービスのスタッフとして、森林資源管理などの林業全般、野生動物管理と狩猟管理について20年以上の実務経験がある。学位論文名は「野生動物による森林被害の経済アセスメント」。1996年からはミュンヘン大学およびミュンヘン工科大学（TUM）で、森林資源管理と森林被害アセスメント分野の研究と講義を行っている。近年、博士課程の大学院生の教育指導のための国際プログラムの責任者として20以上の大学と連携している。日本国内では京都大学、北海道大学、島根大学と連携して、TUMにて森林、林業と農業の持続性についてのサマースクールを開始した。

1. 国際シンポジウム

「北海道における野生動物管理の担い手育成～アメリカにおける最新シカ対策とドイツの狩猟学に学ぶ」

(1) 目的

北海道では、エゾシカを中心とした野生動物管理を実践する担い手の育成が急務です。本シンポジウムでは、海外の先進地における専門家集団による野生動物管理や自然資源利用における狩猟管理について学び、北海道におけるその応用について議論します。

(2) 概要

- ①日 時：平成22年7月23日（金） 13：00～17：15
- ②場 所：酪農学園大学 学生ホール
- ③主 催：酪農学園大学
- ④共 催：北海道・環境省北海道地方環境事務所・エゾシカネットワーク・（地独）道総研環境科学研究センター・ヒトと動物の関係学会・東京農工大学
- ⑤申 込：入場無料、事前申し込み（要）